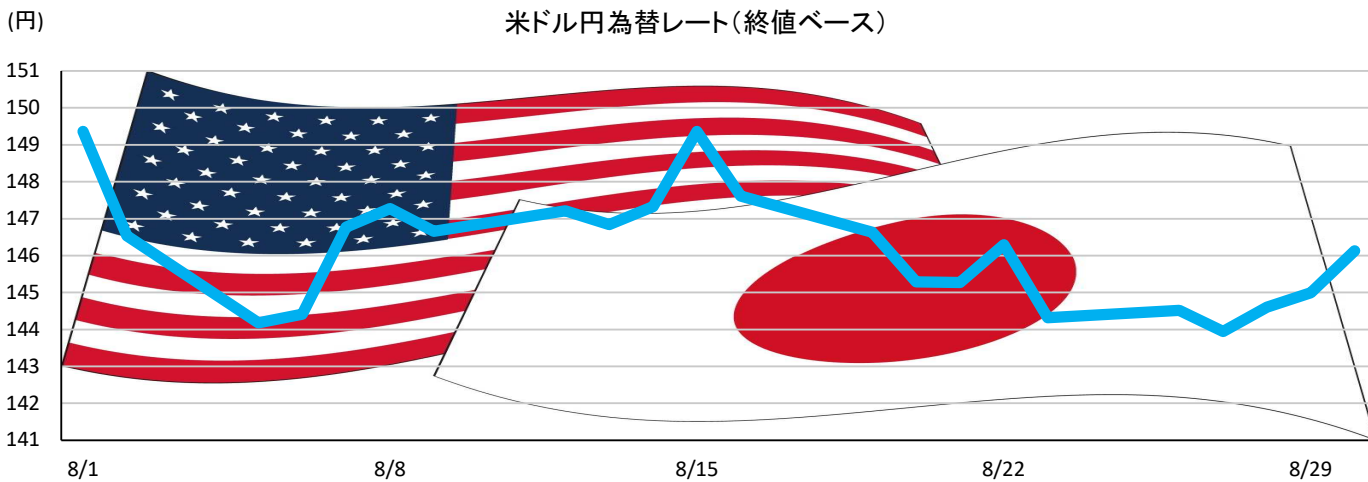


MONTHLY REPORT

先月の振り返り：8月のドル円相場は150円後半～141円半ばで推移。米雇用統計が予想以上に悪化し、米国早期大幅利下げ観測が台頭。さらに日経平均株価が史上最大の下げ幅を記録したことで、円高ドル安に歯止めがかからず年初来の141円台まで暴落。ただ翌日に日経平均株価が過去最大の上げ幅を記録し、ドルは急激に買い戻されるなど荒い値動き。その後も良好な米経済指標発表を受けたドル買いが進みドル円は149円台を回復。しかし、植田総裁が国会の閉会中審査で利上げ継続姿勢を示したことや、ジャクソンホール会合でパウエル米FRB議長が9月会合での利下げを事実上明言したことでドル売りが進んでいたが、米経済指標発表が総じて良好な数字だったことを受けて米国の大幅利下げ観測が後退。植田日銀総裁の、金融市場が不安定な状況で利上げをすることはない、との発言が伝わり日銀の利上げ観測も後退したことからドルは買い戻された。



MARKET REVIEW

米FOMC：世界最大の経済大国である米国の金融政策は、世界の市場やマネーの動きに大きな影響を与えるため注目されるが、今回は特に注目度が高い。パウエル米FRB議長がジャクソンホール会合で、金融政策を調整する時が来た、と言及したことで、9月17日、18日に開催される米FOMCで約4年半ぶりの利下げが確実視され、マーケットは0.25%の利下げ実施を織り込んでいる。ただパウエル米FRB議長は同時に、労働市場環境の更なる悪化には適切に対処する方針を強調、強い労働市場を保つために何でもする、とも述べており、雇用情勢次第では0.50%の大幅利下げに踏み切る可能性も否定できないため注意が必要だろう。米FOMC後の会見で、今後の利下げの時期とペースについて踏み込んだ発言があるのか注目したいところだ。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
9 / 17 (火)	21 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆
9 / 19 (木)	3 : 00	US	米連邦公開市場委員会 (FOMC)	☆☆☆☆☆
9 / 19 (木)	20 : 00	GB	英中銀政策金利	☆☆☆☆
9 / 20 (金)	** : **	JP	日銀金融政策決定会合	☆☆☆☆
9 / 26 (木)	21 : 30	US	米GDP確定値	☆☆☆☆
10 / 4 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
10 / 10 (木)	21 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆